2013年7月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第438号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

ロシア絵本の魅力とは？

ラチョフ絵本「うさぎのいえ」を出版して

文・上野 直子

【カランダーシ初出版絵本】

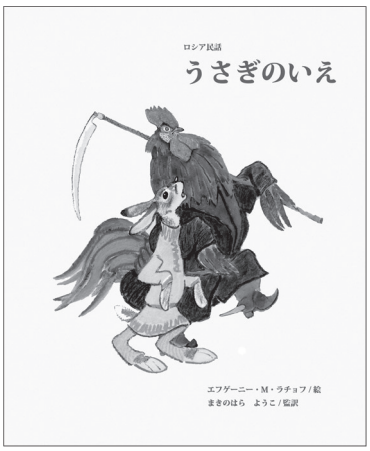
ずるがしこいキツネに家を乗っ取られたうさぎ。犬、狼、熊たちが次々にキツネ追い出しの名乗りをあげますが、キツネの脅し文句に震え上がり逃げていってしまいます。さて、うさぎを助けたのは…。ロシアで愛されてきたこの昔話を1冊の『うさぎのいえ』という絵本にしました。カランダーシが出版する初出版物です。

このお話の絵を描いたのは、エフゲーニー・M・ラチョフ。日本では『てぶくろ』『マーシャとくま』（以上福音館書店刊）などの画家としてご存知の方も多いのではないかと思います。動物本来の野性味や、骨格、関節などのリアリティを残しながらも、衣服を着せ、擬人化することで、人間くささを表現するロシアを代表する動物挿絵の名手です。

【ラチョフの絵と昔話】

絵本『うさぎのいえ』は、ネットショップ・カランダーシ（後述）で扱っている商品、1979年版ラチョフ画「動物民話挿し絵画集」が発想の源です。この挿絵画集に収められた作品は、丁寧な描写と大らかな表現のバランスが絶妙です。そして何よりも、お話の世界に誘う引力を持っていると感じたのです。

紆余曲折がありましたが、結局は画集のカバーの絵のお話「うさぎのいえ」という動物民話で1冊の絵本を作ることにしました。ラチョフ画で、このお話だけで1冊の絵本というのは、ロシアにもありません。ブックデザインもオリジナルの新しい絵本の誕生です。



280mm × 230mm・16頁・本体価格1,100円
カランダーシ発行

お話は昔話です。ばかにされた挙句、理不尽な状況に陥れられる無力なうさぎが主役です。自らも小さな存在である子どもたちは、このうさぎに気持ちを寄せてくれるようです。

長い時を経て語り継がれてきた昔話は、人が生きていく上での智恵や力の源になるといいます。昔話は子どもの心の大切な栄養になるはずです。

登場する動物たちになりきって声に出して読んだり、会話文の中の繰り返しを覚えて劇遊びに発展させても面白いと思います。

この素朴で小さな森の動物たちのお話が、ラチョフの絵とともにたくさんの子どもたちの元に届いてくれたら、こんなに嬉しいことはありません。是非とも、家庭で、また読み聞かせの会などで用いていただけるよう願っています。

【基地的ネットショップ】

「カランダーシ出版」は、このラチョフの絵本『うさぎのいえ』を出版するために、ロシアの原書絵本のネットショップ「カランダーシ」から派生して生まれました。そういうと何か組織だって聞こえますが、実は出版もネットショップもひとりで運営しています。カランダーシとは「鉛筆」という意味です。

このショップは、大変規模が小さいのですが、ラチョフ以外にも宮崎アニメに影響を与えたビリービンや、『3びきのくま』（福音館書店刊）でおなじみのヴァスネツォーフなどの復刻新刊絵本や、翻訳絵本・雑貨も少し扱っています。もちろん営利目的のお店ですが、ロシア絵本の世界を知り、その素晴らしさを発信していくための、いわば「基地的存在」も兼ねたいとの思いから、参考文献の掲載や、ブログ発信もしています。

【ロシア絵本の魅力】

お客様は女性が大半で、とにかく絵本が好きで、ロシア語がわからなくても、絵や装丁を楽しみたいという方々が多いようです。

アートとして絵本を楽しみたいという大人に、ロシア絵本に興味を持つ方々がいらっしゃることは、今年1月発行のパイインターナショナル刊『ロシアの挿絵とおとぎ話の世界』がとても好評だという事からもうかがえるかもしれません。この書籍は、大人向けのものですが、都心の書店の話では、児童書・絵本売り場でも売上が大変好調だった

そうです。

また、このショップは特徴的な品揃えのせいか、大学やデザイン事務所、美術館などからご注文を時折いただくことがあります。ロシア絵本への学術的、芸術的方面からのアプローチです。それは、ロシア絵本が歴史の流れを象徴するひとつのアイコンでもあること、また、ロシア・アヴァンギャルド絵本や民族性豊かな絵本などに見られるそのデザインの独自性によるものではないかと考えています。

このように、絵本そのものを楽しむことはもちろんですが、背景を知れば「へえ、そうだったんだ」という発見があることも、ロシア絵本の大きな魅力だと思います。

【絵本を作っていくということ】

今回、ラチョフ画の絵本を作るということで、何回か『てぶくろ』を読み返しました。絵本の最後、てぶくろにぎゅうぎゅう詰めだった動物たちは、雪降る真っ白な森に散り散りに姿を消してしまうのです。ここからは、非常に感覚的な話になりますが、絵本を作りながら思ったわけです。「自分は、このいなくなった動物たちを呼び戻したいのではないか」と。「呼び戻して、新しい絵本の世界で、蘇らせたかったのではないか」と。人生の中での絵本という存在について、あらためて示唆をもらった気付きでした。

未来へ繋がってゆく過去。または、繋げてゆくべき過去。それは、カランダーシが絵本を作ってゆく上でのひとつの方向性だと思っています。

いずれにせよ、絵本の作り手としては、入り口に立ったばかり。目の前には雪降る真っ白な森が、ただただ広がっているばかりなのです。

（うえの なおこ／カランダーシ代表）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『女性法曹のあけぼの　－華やぐ女たち』●佐賀千恵美著

昭和15年、日本で初めて女性の弁護士が誕生した。三淵嘉子、中田正子、久米愛の３人である。当時は法律自体が男性優位であり、男尊女卑が当たり前だった。そんな時代に法曹界へ進んだのはどんな女性だったのか。自身、弁護士でもある筆者は本人や遺族へのインタビューや文献資料を基に彼女らの足跡を辿っていく。本書は平成３年に出版されたドキュメンタリーの復刻版。この22年の間に最後の一人、中田正子が亡くなったことなどをきっかけに再び出版された。三人三様、数々の苦難を乗り越え、職業人として真の男女平等を目指し、妻や母の役割をもこなしながら激動の時代を生き抜いた。法曹史としても女性史としても意義ある一冊。

◆ 1575円・Ａ５判・267頁・**金壽堂出版**・奈良・2013/4刊・ISBN978-4-903762-10-4

『津軽学８号 －津軽の近代化と鉄道』●赤坂憲雄ほか著

雑誌『津軽学』第８号のテーマは津軽の近代化と鉄道。新幹線の北海道への延伸を控える今、ぴったりかもしれません。収録されたいくつかの論考でもそのことについてふれています。これは観光や地域振興を考える上でのまたとない機会ですから。一方で「近代化」の側面に光を当てた論考も。鉄道開業がもたらした地域の変化、そしてモータリゼーションの進展により追い込まれつつある鉄道。鉄道を通じこの100年あまりの青森の歴史と現在の課題を垣間見ることができます。もちろんそれらの課題の中には全国に共通するものもあり考えさせられます。ほかにも津軽森林鉄道の歴史など地元ならではの論考も収録。

◆ 1500円・Ａ５判・191頁・**企画集団ぷりずむ**・青森・2013/3刊・ISBN978-4-9902754-8-8

『宮崎学　自然の鉛筆』●宮崎　学著

ご覧のように表紙は、ツキノワグマが三脚付きのカメラをかかえて、カメラマンのごとき表情で立っている驚きの写真だ。もちろんやらせ写真ではない。　本書は、赤外線感知装置を駆使した無人カメラのシステムを生み出した動物カメラマン宮崎学の先駆性を解析した写真集である。宮崎の写真は単なる隠し撮り写真とは異なり、「身体のすべてを鋭敏な感覚センターと化し」てけもの道を探し出し、足跡からはその動物を割り出し、そこに無人カメラを長期間設置し、あたかも動物自身にシャッターを押させ、動物自身の自画像を撮るといった写真なのである。また、野生動物の死から白骨化するまでを追った一連の写真には思わず身震いする。

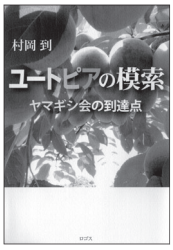
◆ 2625円・Ｂ５判・167頁・**ＮＯＨＡＲＡ**・静岡・2013/3刊・ISBN978-4-904257-16-6

『心情研究者としてのゲーテ』●ルートヴィッヒ・クラーゲス著／田島正行訳

訳者の田島氏があとがきで「新ロマン主義者」と冠をつけていたが、そんなグラーゲスの面目躍如たるゲーテ論。〈心情〉とはクラーゲスにとって精神の原理と対立する生命の原理を言うが、ゲーテとはまず、その〈心情〉の項と置換可能な〈現象〉の研究者である。なお〈現象〉の対立項は〈事実〉となる。さらにゲーテはデモーニッシュなもの、と表現される〈無意識〉の発見者である。〈無意識〉の対立項は無論〈意識〉。つまりゲーテとは〈事実〉の向こう側にある原形象を観取する詩人であった。が、本書の付録『ゲーテ的人間の限界についての覚書』においてクラーゲスは、ゲーテはその詩人の場所からの帰り道を見出して〈賢者〉となったと言う。

◆1890円・四六判・152頁・**うぶすな書院**・東京・2013/4刊・ISBN978-4-900470-28-6

『ユートピアの模索　ーヤマギシ会の到達点』●村岡　到著



過去にはバッシングも浴びたヤマギシ会。しかし農業法人としては日本でも指折りの存在です。無所有の思想の下、人々は農業中心の労働に勤しみ、そこにいる限り高齢になっても生活や医療が保障されます。それは現代日本の中にありながら、まるでひとつの別世界のよう。著者はヤマギシ会の生活システムや教育システムを施設に訪ね、設立以来の歴史と創設者である山岸巳代蔵の思想を辿ることにより、どうやってこのような共同体を作り、維持できたのかを探ります。バッシングを受けた色々な問題も含め、模索を続けるヤマギシ会の姿は、今とは別の社会のありかたを考える上でも大きなヒントになるでしょう。

◆1890円・四六判・226頁・**ロゴス**・東京・2013/3刊・ISBN978-4-904350-27-0

地方小出版 流通センター　ジャンル別 新刊案内

2013年5月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**ゆきのまち通信**　１４６　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-19854-9　13/05

◆**会津人群像**　Ｎｏ．２３　阿部　隆一編　Ｂ５　130頁　１２６０円　歴史春秋社［福島］978-4-89757-801-9　13/04

◆**茨城史林**　第３７号　茨城地方史研究会編　Ａ５　166頁　１２００円　筑波書林［茨城］978-4-503-19869-3　13/06

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４０１　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-33-6　13/05

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．１８４　稲邑　恭子編　中村泰子、冠野　文編　Ａ５　80頁　８００円　フェミックス［神奈川］978-4-903579-50-4　13/06

◆**オルタ**　４４０　田中　滋編　Ｂ５　17頁　３１５円　アジア太平洋資料センター［東京］978-4-503-19851-8　13/04

◆**Ｂｅ！**　１１１号　Ｎｏ．１３３　今成　知美編　Ａ５　107頁　８４０円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］978-4-901030-86-1　13/06

◆**世間話研究**　第２１号　世間話研究会編　Ａ５　98頁　１０５０円　岩田書院［東京］978-4-503-19861-7　13/03

◆**レコード・マネジメント**　Ｎｏ．６４　菅　真城編　Ａ４　88頁　３０００円　岩田書院［東京］978-4-503-19857-0　13/03

◆**ＨＯＴ　ＣＨＩＬＩ　ＰＡＰＥＲ**　Ｖｏｌ．７５　ＨＯＴ　ＣＨＩＬＩ　ＰＡＰＥＲ編集部編　Ｂ５　112頁　９８０円　エイチ・シー・ピー［東京］978-4-906813-05-6　13/06

◆**明日を拓く**　Ｎｏ．１８２　吉田　勉編　Ａ５　115頁　１０５０円　解放書店［東京］978-4-503-19858-7　13/02

◆**仏事**　Ｎｏ．１５３　清水　祐孝編　Ａ４　96頁　１５７５円　鎌倉新書［東京］978-4-503-19867-9　13/06

◆**寺門興隆**　Ｎｏ．１７５　矢澤　澄道編　Ａ５　187頁　１１５５円　興山舎［東京］978-4-904139-78-3　13/06

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５０７　片岡　輝編　Ａ５　48頁　３０５円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-19866-2　13/06

◆**子どもと本**　第１３３号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　６２０円　子ども文庫の会［東京］978-4-906075-37-9

売行良好書　期間：2013年5月16日～6月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版　(2)『演じてみよう　つくってみよう　紙芝居』1365円・石風社　(3)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(4)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(5)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(6)『パターン認識と機械学習の学習』1050円・暗黒通信団　(7)『松居直講演録　こども・えほん・おとな』1050円・「絵本で子育て」センター　(8)『写真でわかる　磯の生き物図鑑　フィールド版』2100円・トンボ出版　(9)『百歳がうたう　百歳をうたう』500円・鉱脈社　(10)『地域に飛び出す公務員ハンドブック』1575円・米子今井書店　(11)『長野の山城ベスト５０を歩く』2100円・サンライズ出版　(12)『井上馨　開明的ナショナリズム』2520円・弦書房　(13)『息子介護』1260円・筒井書房

［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　６月号』420円・東京かわら版　(2)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(3)『昭和プロレスマガジン　２９』1000円・昭和プロレス研究室　(4)『将門と忠常』1575円・崙書房　(5)『長野の山城ベスト５０を歩く』2100円・サンライズ出版　(6)『出雲大社展　平成の大遷宮』2000円・ハーベスト出版　(7)『古代出雲の壮大なる交流』1000円・ハーベスト出版　(8)『幕末江戸下町絵日記』2520円・渡辺出版　(9)『千葉氏と妙見信仰』3360円・岩田書院　(10)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込価格

(1)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(2)『ルポ・発達障害』1050円・下野新聞社　(3)『吉本隆明と「二つの敗戦」』1575円・脈発行所　(4)『奥多摩東部登山詳細図　全５８コース』800円・吉備人出版　(5)『タンジブル』1785円・書肆侃侃房　(6)『悲劇の好字』2310円・不知火書房　(7)『立身出世と下半身』2730円・洛北出版　(8)『居場所を探して』1680円・長崎新聞社　(9)『ラフカディオ・ハーンの英語教育』3360円・弦書房　(10)『井上馨　開明的ナショナリズム』2520円・弦書房　(11)『原田正純追悼集　この道を―水俣から』2940円・熊本日日新聞社　(12)『長野の山城ベスト５０を歩く』2100円・サンライズ出版

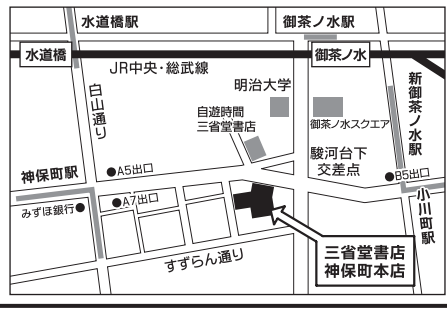
以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

『桐島、部活やめるってよ』(朝井リョウ著)やその続編『少女は卒業しない』の表紙写真で知られる**写真家・小野啓氏の写真集『ＮＥＷ　ＴＥＸＴ』**の制作に、参加してみませんか……このプロジェクトの詳細は下記、**赤々舎**のホームページに譲りますが、簡単に言うとその目的は、小野氏の新しい写真集を一口5000円で予約してもらうことで、誰もが買いやすい価格とし、さらに全国の図書館や個人に500冊を目標に寄贈すること、となります。／300ページ、A4、ハードカバーという型を想定すると通常は6000円の値段をつけなければならないところ、被写体である高校生でも買うことができる値段として税抜き3800円を目標とするそうです。／また、予約者本人が図書館や個人等、寄贈先を指定できる仕組み。寄贈先を赤々舎に一任することも可能とのこと。／当初期限を設け、500人の予約を募りましたが、思うように集まらなかったため、目標達成まで期限を設けずにプロジェクトを続行することにしたそうです。／プロジェクトで集まる予定の予約金(500件で250万円)と赤々舎出資分の300万円を合わせた550万円が本書の制作資金。4月19日現在194件の予約しか入っておらず、目標の39%にとどまっているという現状です。
http://akaaka.com/newtext-project/overview.html

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。